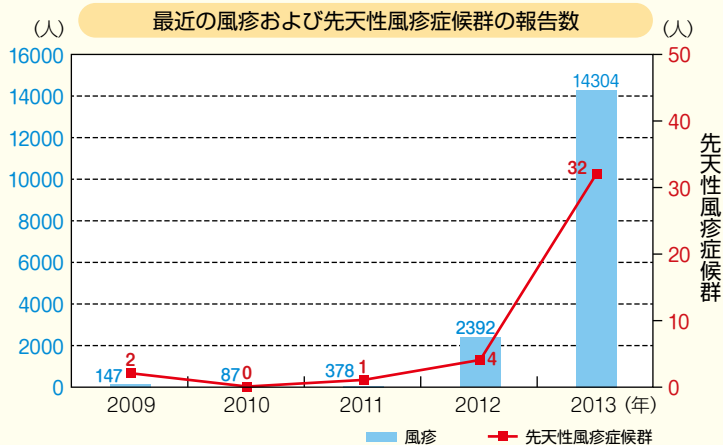


先天性風疹症候群

～妊娠前の風疹対策は緊急事態！

風疹の流行に注意しましょう

一昨年あたりから風疹が流行しています。風疹の三大症状は急性の発熱、発疹、リンパ節の腫（は）れですが、もっとも危惧することは、母親が妊娠初期に風疹ウイルスに感染すると、かなりの高い発生頻度で、耳、目、心臓などに異常をもった先天性風疹症候群の子どもが生まれてくることです。妊娠を予定または希望している女性には、妊娠前の風疹の予防対策がととても大切になります。



先天性風疹症候群とは？

風疹に免疫のない女性が妊娠中に風疹ウイルスに感染すると、胎児に感染し、耳、目、心臓などに生まれつきの異常をもった子どもが生まれるリスクが高まります。この子どもの病気を先天性風疹症候群といいます。妊娠週数の早い時期に感染するほど、異常の発生頻度は高くなり、異常が合併して発生しやすくなります。

からだの異常はさまざま



感染すると先天性風疹症候群が生まれる確率はかなり高くなる！

- 風疹に感染した妊婦のうち、胎児まで感染するのは、およそ3分の1、さらにその3分の1が先天性風疹症候群を発症します。ただし、おとなでは感染しても症状がでない不顕性感染が15%程度あるので、母親が無症状であっても先天性風疹症候群はゼロではありません。
- 先天性風疹症候群の発生頻度は、妊娠4週までの感染では50%以上、5～8週で35%、9～12週で15%、13～16週で8%といわれています。
- 妊娠2か月以内の感染では、白内障、先天性心疾患、難聴のうち2つ以上を合併することが多く、妊娠3～5か月での感染では、難聴のみのおこなが多いといわれています。

先天性風疹症候群は防げる病気です

風疹はワクチンによって防げる代表的な感染症です。国は2020年のオリンピック年までの風疹排除を目標にしていますが、先天性風疹症候群の発生ゼロ対策は待ったなしです。

先天性風疹症候群の発生を防ぐために

- 妊娠を希望する女性は、妊娠前に夫婦そろって風疹の抗体検査と予防接種を検討してください。
- 妊娠中の女性の家族は、風疹の予防接種を検討してください。妊婦は予防接種は受けられません。
- 風疹にかかったことがない、またはワクチン未接種の成人男性は風疹の予防接種を検討してください。
- 1歳代（1期）と小学校入学前の1年間（2期）に、麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）の2回の接種を受けてください（定期接種）

（お問い合わせは、各医療機関または最寄りの保健所へ）